

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年10月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	〃0175000843
法人名	株式会社 ふれやか
事業所名	グループホーム ふれやか 癒楽
所在地	北見市春光町1丁目31番地1 (電話) 0157-61-5666

評価機関名	(有) NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成20年10月22日

## 【情報提供票より】(20年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	5.0 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	共営費17,760円(10月~3月暖房費5,820)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	367 円	昼食	367 円
	夕食	367 円	おやつ	52 円
	または1日当たり 1,153 円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.5 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北見中央病院 ・ 緑町歯科
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「ふれやか癒楽」は、北見市東部の国道より少し入った住宅地に位置し、すぐ隣には遊歩道や広場がある平屋建て1ユニットのホームとなっています。利用者も遊歩道を利用して散歩に出掛け、散歩やジョギングする地域の人々と挨拶を交わす等交流されています。日当りの良いホール内は季節を感じる飾り付けがなされ明るく優しい雰囲気の中、『皆さんの笑顔それが私たちの喜びです』の理念のもと管理者・職員は言葉かけ等常に気をつけて接しています。家族の訪問も頻繁にあり、焼肉パーティやクリスマス会等家族と共に行動も多に行われ、ホームの様子のスライドショーも行っています。利用者の希望で、近くの回転寿司まで散歩をしながらみなでお寿司を楽しんだり、イチゴ狩り・桜見学・焼芋作り等楽しみが沢山あるホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題について、地域との付き合いとして町内会行事に参加し、地域のボランティアとの交流、年4回ホーム便りを発行し町内会にも回覧板で回してもらっています。評価の意義の理解と活用は、職員各自が自己評価に取組み意義も理解出来るようミーティング等で話し合っています。職員を育てる取組みは、外部研修の参加に加え年間計画を立てて内部研修を行うなど改善されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員各自が自己評価を行い、それを管理者がまとめ作成しています。出来上がった自己評価は管理者、職員で情報の共有がされています。外部評価の結果は、玄関先に開示され、ミーティングや運営推進会議等で話し合い質の向上に努めています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1度、ホーム内のホールで開かれています。利用者、利用者家族、地域包括支援センター職員、町内会会長、民生委員が参加し、ホームでの生活状況・今後の活動予定・地域との交流や包括支援センター職員による口腔ケアや棒体操・嚥下体操の講習、災害時の地域住民の協力体制作りについて等も話し合いが行われています。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族全てが運営推進会議のメンバーであり、会議内でホームの報告意見交換等行っています。参加出来なかった家族には議事録を配布し内容の説明をしています。また、家族訪問時にも利用者の様子等を伝えるよう努め、月に1度金銭出納帳と領収書の確認も行っています。年4回発行のホーム便りは写真を多く取り入れてホームの様子が良く判る様取り組んでいます。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、ゴミステーションの掃除を利用者で行ったり地域の行事に参加しています。町内の方が年2回草刈に来てくれたり、ホーム主催の焼肉パーティに地域の方々や家族を招待し楽しいひと時を過ごす等積極的に交流を図っています。市の施設を利用したのパン作りに出掛けたり、カラオケボランティアの受け入れやグループホーム利用者で結成された”ひばり合唱団”にも参加しています。</p>

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成18年9月にそれまでの法人統一の理念に加えて、より解り易く自分達の思いを表すべく独自の理念を作成し「利用者皆さんの笑顔」をキーポイントに日々取り組まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、キッチン、スタッフルーム等に張っており、職員はそれぞれ工夫して理念を常に眼にしなが理念に沿ったケアを心掛け実践しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者、職員は、常に地域との交流を心掛け、散歩時の挨拶や言葉掛けの中から交流を深めています。年2回地域の方が草刈に来たり、焼肉パーティに招待したり、運営推進会議のメンバーに入って頂く等積極的に関係を築いています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の回を重ねる事によって職員は、意義を理解し、今回の自己評価に付いても各自が自らのケアを見返りながら取り組み管理者がまとめ作成し共有がされています。外部評価についても 改善点等を会議等で話し合いより良いケアに向けて取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、利用者家族、町内会会長、民生委員、地域包括センター職員が参加して2ヶ月に一度開催されています。ホーム内のホールで開催される為利用者が参加し易く、全家族が参加し、ホームの様子や今後の活動予定、課題点に付いて話し合わせ、地域との交流を深め、ケアの向上に繋げています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に法人の統括部長が行政との連絡や情報収集に努め、その都度相談にも出向き取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回ホーム便りを発行し、家族や地域に配布しホームの状況を知らせています。職員は家族の訪問時に声をかけ利用者の様子や状況を伝え、月に一度金銭出納帳と領収書の確認もされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族の訪問時に声をかけ、何でも言っただけで貰える関係作りに努めています。2ヶ月に一度開催される運営推進会議にもほとんどの家族が出席し意見交換が行われています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職については、利用者の不安に配慮した言葉がけに留意し、職員は勤務に入る時は「ただいま」退去の時は「行ってきます」と言う様にして家庭的な雰囲気作りを心掛けています。新任職員の夜勤時には、管理者も入り利用者や新任職員の不安に配慮がされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム網走ブロックにての研修会や他の研修会に積極的に参加する様に管理者は職員に声を掛け、月一度行われるミーティング時に内部研修も行われています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の他2ヶ所のグループホームと合同の祭りを開催したり、外部研修の折りに交流に努めています。利用者が参加する「ひばり合唱団」を通じての他グループホームとの交流もされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者入居時は、ホームの見学をして貰い、管理者、職員も自宅を訪問し状況の把握に努め安心して利用して貰える様に話し合わせ取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす中で、本人の持てる力を活かしながら配膳、後片付け、洗濯物たたみ、畑仕事等共に学びながら支え合う関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と話しをしたり、昔話を聞いたりする中で希望や意向を聞いたり、又、言葉には表せない思いを汲み取りながら、利用者が自分らしく生活出来る支援を心掛けています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度のミーティング時や二ヶ月毎に行われるカンファレンスに於いて利用者の状況が話し合わせ、担当職員の家族への聞き取りも行い日々の気づきの中から利用者本位の計画が作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度モニタリングを行い、又、その都度必要に応じてケアマネージャー、職員、家族が話し合い見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や車椅子での外出支援等状況に応じた支援を行っています。院外薬局と提携し薬の配達をして貰う等家族の負担にも配慮がされています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携し支援されています。状況の変化があった場合は、スタッフ全員で情報の共有に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての指針を定め、入居時に家族とも話し合いがされています。ケアマネージャーと管理者がターミナルケアの講習を受け、職員で情報の共有に努めています。利用者の思い、家族の思いを大切にしながら、協力医と連携をとり、取り組む姿勢が感じられます。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者の尊厳を大切にした言葉掛けを心掛け、異性職員がプライバシーに関わるケアを行う時は利用者の意向を聞く等利用者の立場にたったケアを実践しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	管理者、職員は利用者とは日々接する中で利用者の生活習慣や思いを汲み取り、調理や掃除、畑の作物の収穫、共に新聞を読んだり等一人一人の希望に沿ったその人らしい暮らしが出来る様に支援しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に盛り付けや配膳、後片付けを行ったり、毎週土曜日の夕食は利用者の好みを取り入れた献立をたて、一緒に買い物、調理を行い食事を楽しんでいます。時には、利用者の希望で回転寿司を楽しむ事もあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広くゆったりとしています。入浴日は決まっていますが出来るだけ利用者の希望に沿うように支援しています。受診予定の前日に入浴出来るような配慮もされています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節ごとに様々な行事が予定されて利用者の楽しみとなっています。毎日の生活に於いても一人一人の力を活かし畑仕事、家事、散歩、買い物等本人のペースに合わせた支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に留意しながら隣にある遊歩道での散歩が頻繁におこなわれています。毎週土曜日の夕食の買い物に職員と一緒に出掛けたり、お花見や菊祭り見学等皆で外出する事も多く行われています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は、日中鍵を掛けないケアの大切さを理解しており、5時30分～22時迄は鍵を掛けないケアを実践しています。玄関にセンサーが付いており一人で外出する利用者の安全確保に配慮がされ、玄関の外にもセンサーライトを設置し防犯にも配慮がされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署、防災会社の協力を得て避難訓練が行われています。今年、非常口も設置され、職員の連絡網や役割分担も整備されています。	○	災害時には、地域住民の協力が得られる様な連携体制作りや、夜間の災害に対する対応の整備を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専任の栄養士による栄養バランスを考えた献立が作成されています。食事量等一人一人に合わせた食事が提供されています。水分量も1000～1500ccを目安に個々に合わせた支援が行われ、記録も職員で共有されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは日当たりが良く、利用者はソファで昼寝をしたり新聞を読んだりと思いいにゆったりと居心地良く過ごしています。季節の飾りつけはパステル調で統一され暖かなやさしい雰囲気が感じられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には使い慣れた馴染みの家具や仏壇、家族の写真等が置かれその人らしく安心して暮らせるように支援しています。		